

平成28年度施策評価シート(平成27年度実施事業)

| | |
|-------|------|
| 作成主管課 | 農政課 |
| | 農業公社 |
| 関係課 | |
| | |

| | | | |
|-----|-----------|-------|-------|
| 施策名 | グリーンツーリズム | 施策コード | 2-2-2 |
|-----|-----------|-------|-------|

総合計画後期基本計画の内容 ※H24.2月策定

| | | |
|-------|---|------------------------|
| 政策体系 | 政策 | 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり |
| | 小政策 | 豊かな恵みを実感できる農林業を振興します |
| 現況と課題 | <p>近年、自然志向や価値観・ライフスタイルの多様化が進む中、自然環境や健康を優先し、真にゆとりある生活を楽しまない人々の増加や、体験する観光ニーズの増大など、グリーンツーリズムへの関心がますます高まっています。また、都市農村交流産業は、農村住民の生きがいづくりをはじめ、農業生産環境の維持・創出や経済効果を担う新たな産業として期待されています。</p> <p>本市における都市農村交流の取り組みとして、笠間クラインガルテンを核に、地域特性を生かした自然や農業と親しめる環境整備を進め、笠間ファン倶楽部会員による体験作業の実施など、笠間の自然・里山・農地等の農村空間を活用した事業を展開してきました。</p> <p>また、多目的交流施設の設置や二地域居住者組織の結成などの機能強化や、大学生の農家受け入れ事業、梅の庭先販売・オーナー制マップの作成、観光との連携など、各種の資源を生かした新たな交流につながる取り組みを進めてきました。</p> <p>今後は、グリーンツーリズムの総合的な推進体制を整え、首都圏からのアクセスの良さと豊富な自然・文化を活用した体験交流事業の充実や、市民農園、農産物直売所のグレードを高めるような運営展開を進め、農林業を媒体に都市と農村の交流による地域活性化を図る必要があります。</p> <p>また、これらの交流により、二地域居住や定住に対応した受け入れ体制づくりなどを推進していく必要があります。</p> | |
| 施策目標 | グリーンツーリズムの総合的な推進体制を整え、豊富な自然と文化などを活用した体験交流事業の充実を図り、農林業を媒体に都市と農村の共生・対流による農業・農村の活性化を推進します。 | |

1 総合計画進行管理

| | |
|-------------|--|
| 市民からの意見・反応等 | |
|-------------|--|

(1) 目標指標1

| 市民実感度指標 | | H23現状値 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|-----------------------------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 都市と農村との交流により活性化が図られていると感じている市民の割合 | 市民実感度 | 23.210 | 26.160 | 29.380 | 26.190 | 27.460 | 0.000 |
| | 加重平均値 | 2.079 | 2.137 | 2.195 | 2.158 | 2.174 | 0.000 |
| ※※※※※※ | 市民実感度 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| | 加重平均値 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 当施策を重要と感じている市民の割合 | 重要度 | | 73.840 | 72.490 | 73.430 | 74.800 | 0.000 |
| | 加重平均値 | | 3.053 | 3.012 | 3.077 | 3.123 | 0.000 |

(2) 目標指標2

| 数値指標 | | 単位 | H23現状値 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|----------------------|--------|----|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 体験農業者数(笠間クラインガルテン受付) | 目標値 | 人 | | 220 | 1,600 | 1,650 | 1,700 | 1,750 |
| | 実績値 | 人 | 200 | 1,587 | 1,865 | 1,965 | 1,492 | 0 |
| | 達成度 | % | | 721.36 | 116.56 | 119.09 | 87.76 | 0 |
| | ベンチマーク | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ※※※※※※ | 目標値 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 実績値 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 達成度 | % | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ベンチマーク | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ※※※※※※ | 目標値 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 実績値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 達成度 | % | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ベンチマーク | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ※※※※※※ | 目標値 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 実績値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 達成度 | % | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ベンチマーク | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | |
|----------|-----------|---|
| 数値指標の考え方 | 指標設定の考え方 | グリーンツーリズムを推進することにより、都市と農村の交流を促進させ、地域農業の活性化を図ることを目的としている。事業を推進するため、課題を分析する上で必要とされる交流人口の目安とし、指数を設定した。 |
| | 目標値設定の考え方 | 体験農業者数は、原発事故の風評被害により大きく落ち込んだなかで設定をしたが、H24は予測を大きく上回り、事故以前に戻りつつある。今後も、PRに努め交流人口を増やしていくことを目標値として設定した。 |

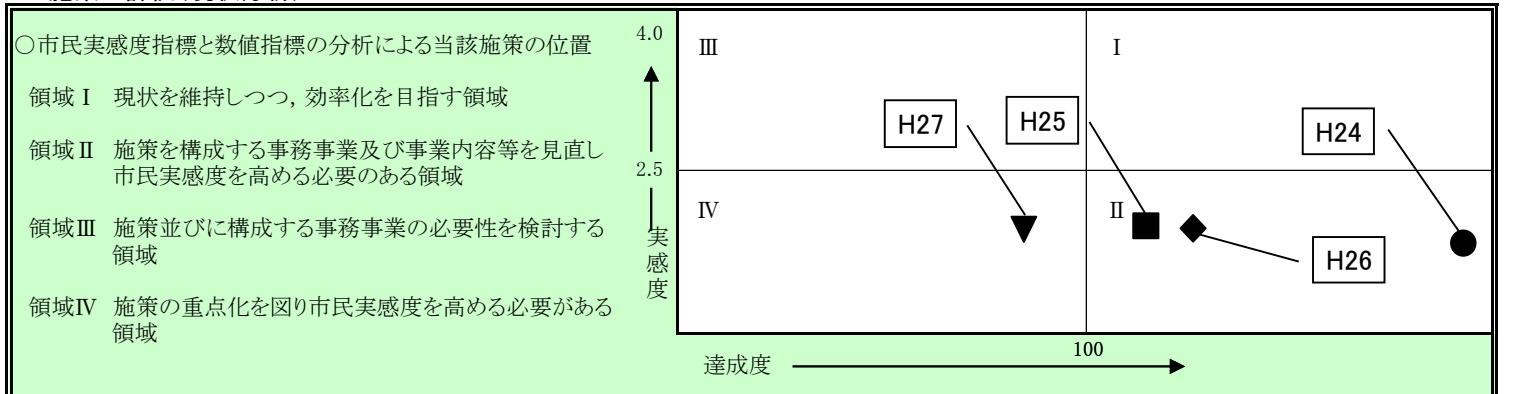
2 施策の成果向上に向けての市民と行政との役割分担をどう考えるか

| | |
|-------|--|
| 市民の役割 | 市民(地域・団体・事業所)が自助でやるべきこと。共助でやるべきこと。市と協働でやるべきこと。 安全・安心な農産物の提供。 都市住民の受け入れ態勢の整備。 観光農園・農産物直売所のグレードアップ。 地産地消の推進。 |
| 行政の役割 | 市がやるべきこと。県がやるべきこと。国がやるべきこと。 関係機関と連携した各種事務事業の展開。 都市住民へのPR強化。 |

3 平成27年度取組状況

| | |
|-------|--|
| 取組状況等 | 取組み内容と成果、成果が得られた要因として考えられること。 都市部を中心に、笠間市の体験できる農園や農業特産品などのPRイベントを、二地域居住者とともに開催し、都市住民との交流を促進させた。 |
|-------|--|

4 施策の評価(現状分析)



| | |
|-------|---|
| 達成度評価 | 指標を分析した結果施策目標は達成されたのか 市外で行うPRのほか、市内においても農業体験や農産品のPRを行ったことにより、住民実感度の向上、体験農業者数の増加につながった。 |
|-------|---|

| | |
|------------|--|
| 構成事務事業の適正性 | 施策目標を達成するための手段(事務事業)の構成は妥当か 施策目標を達成するためには、一つの手段にとらわれず、さまざまな手段を複合的に進めていかなければならず、各事務事業の相乗効果により、目標値を上回ることができ、適正な事業が行われた。 |
|------------|--|

| | |
|--------|--|
| 残された課題 | 平成28年度以降に残る課題、その要因として考えられること。 都市住民のニーズの変化に迅速に対応できるよう、情報の収集や情報提供、環境の整備を行う。 体験農業等の総合的窓口の整備。 質の高い農業体験を提供できる人材・環境の整備。 |
|--------|--|

5 今後の方向性

| | |
|------|---|
| 取組方針 | 平成29年度に向けた施策方針 笠間市のもつ農業資源を活かした、交流の受け入れ体制を整備するほか、都市部との相互交流による地域活性化の施策を展開する。 |
|------|---|

シート3-1 施策構成事務事業貢献度評価

施策名 02 グリーンツーリズム

| | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 事業費合計 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 3カ年計 | 3カ年平均 |
| | 2,861 | 14,003 | 11,900 | 28,764 | 9,588 |

| | 施策を構成する事務事業 | 事業内容 | 事務事業性質 | 成果 | | | 補助区分 | 事業費(千円) | | | 小施策 | 担当課 | 貢献度評価 | | |
|---|---------------|--|------------|---------|----|--------|------|---------|--------|--------|-------|-------|-------------------|--------|--------|
| | | | | 成果指標① | 単位 | 平成25年度 | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成25年度 | | | | 平成26年度 | 平成27年度 |
| 1 | クラインガルテン事業 | 農業・農村の有する多面的機能を十分に発揮し、地域農業の活性化を図るため、クラインガルテンを核に都市と農村の交流を通した豊かな農村づくりを目指す。 笠間クラインガルテンの管理運営に関する協定に基づき、平成23年4月1日から平成28年3月31日まで常陸農業協同組合が指定管理している。 | 105 維持管理事業 | | | 0 | 0 | 0 | 市単独 | 1,089 | 1,088 | 1,090 | 02 都市農村交流施設の更なる充実 | 農政課 | 1 |
| 2 | 生き活き菜園はなさか事業 | 自然・健康志向、食の安全安心、野菜づくりを通した生きがいづくりなどの住民ニーズに応えるため、市民農園を整備し利用促進することで、市民が気軽に栽培活動に取り組める環境づくりを行うとともに、耕作放棄地の有効活用を図る。○平成19年4月開園 ○施設概要 1区画30㎡、全84区画、 利用料10,280円/1区画、付帯施設:農機具倉庫、水道施設、トイレ、他 ○平成23年度より管理運営業務を一部委託。 | 105 維持管理事業 | 利用契約区画数 | 区画 | 64 | 70 | 78 | 市単独 | 1,087 | 2,828 | 1,051 | 02 都市農村交流施設の更なる充実 | 農政課 | 7 |
| 3 | クラインガルテン整備事業 | 笠間クラインガルテンの快適な施設環境を維持するため、施設の老朽箇所を計画的に修繕するものである。・同施設内で傷み、木材腐食防止のためラウベの屋根の修繕や外装の塗装を行う。 | 105 維持管理事業 | ラウベ利用率 | % | 100 | 100 | 100 | 市単独 | 652 | 9,218 | 9,688 | 02 都市農村交流施設の更なる充実 | 農政課 | 1 |
| 4 | あいあい農園事業 | | 106 政策的事業 | | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 02 都市農村交流施設の更なる充実 | 農政課 | |
| 5 | グリーンツーリズム推進事業 | 本市が有する豊かな農村資源を活用した、都市住民と農村地域住民の交流を促進することにより地域活性化を図る。今年度から事業を笠間市農業公社へ委託し、民間の自由度の高さを取り入れた魅力的な事業実施を望む。 | 106 政策的事業 | 二地域居住者数 | 人 | 15 | 14 | 14 | 市単独 | 33 | 869 | 71 | 01 都市農村交流の活性化の推進 | 農政課 | 2 |

シート1 施策内事務事業目的直結度評価

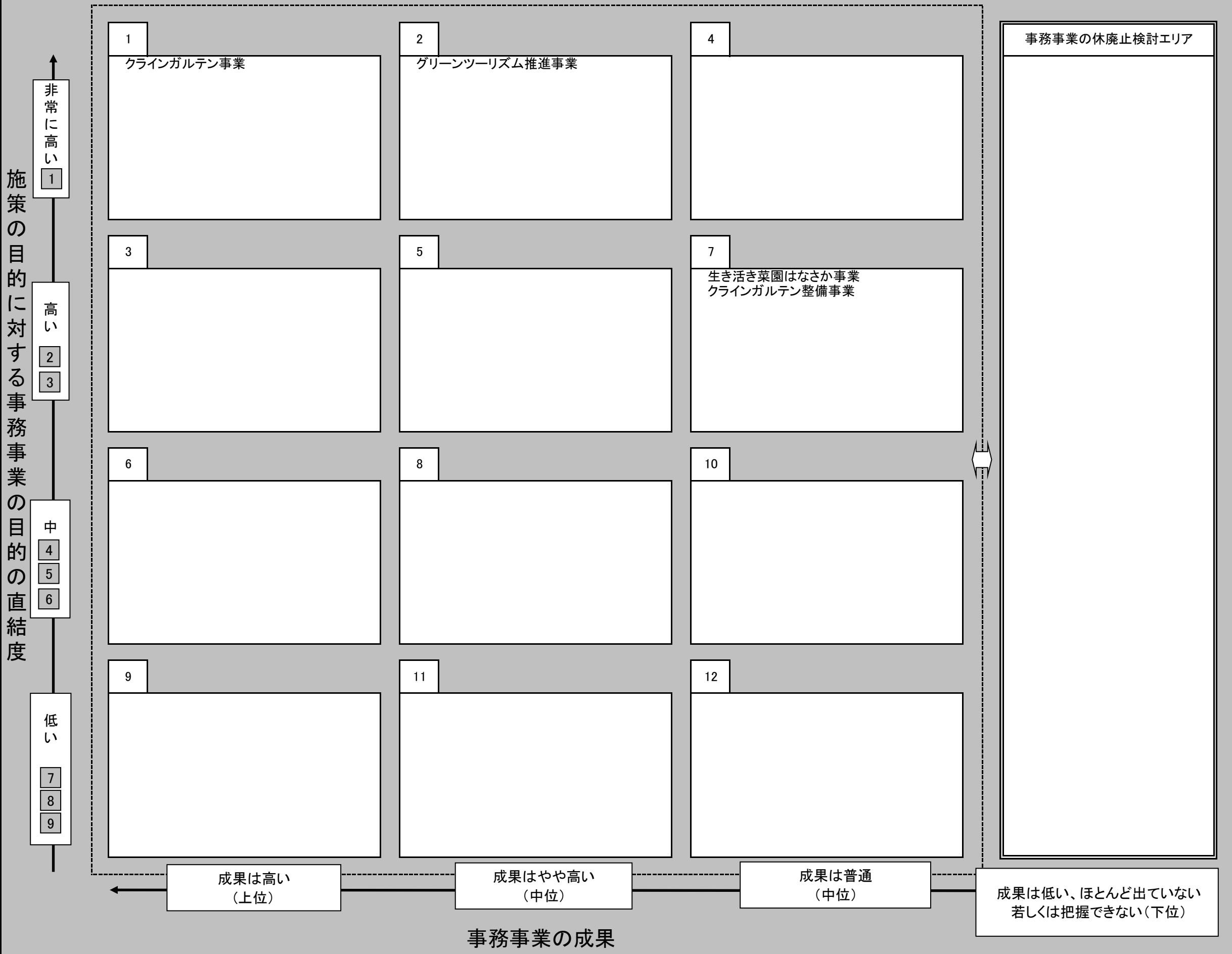
施策名 グリーンツーリズム

| | | | | | | | | | |
|--|---------------|------------------------------|---|----------------|---|--|------------------|--|--|
| 施策 目標 に 対 応 し て い る 施 策 目 標 に 概 ね 対 応 し て い る 施 策 目 標 に 間 接 的 で あ る 施 策 目 標 に 対 す る 事 務 事 業 の 意 図 | 1 | クラインガルテン事業 グリーンツーリズム推進事業 | 2 | | 4 | | | | |
| | 3 | クラインガルテン整備事業 生き生き菜園はなさか事業 | 5 | | 7 | | | | |
| | 6 | | 8 | | 9 | | | | |
| | 施策の対象と一致している | | | 施策の対象と概ね一致している | | | 施策の対象と間接的(少数)である | | |
| | 施策の対象と事務事業の対象 | | | | | | | | |

義務的事業, 内部事務事業

シート2施策内事務事業貢献度評価

施策名 グリーンツーリズム



事務事業の休廃止検討エリア

義務的事業, 内部事務事業

事務事業の成果基準の説明
 成果基準については、施策目標の達成のために取り組む事務事業について、必要性とその効果をもとに分類した